

どこがちがう？ 慣用句の直し②

なまえ _____

場めん に 合わない 慣用句を 直そう～こまった 場めん～

ひづけ _____

- ・問1～3は 下線が 引いて ある。問4からは、こまった ようすに 合わない 慣用句の ところに 自分で 下線を 引こう。
- ・場めん に 合う 慣用句に 直して、文ぜんぶを 横線に 書こう。ことばの おわりは かえて よい。
- ・問1～6は 下の 箱から えらぼう。箱の ない 問は、場めん に 合えば どの 慣用句でも よい。
- ・直さなくて よい 文は、下線を 引かずに、横線の 上に 『なおさない』と 書こう。

- (1) 場めん 弟が 何度 注意しても いたずらを やめない。

母は 手を抜いた。

→ _____

- (2) 場めん 朝から 夕方まで 歩き つづけて、もう 一歩も 歩けない ほどだった。

わたしは 足を運んだ。

→ _____

- (3) 場めん けんかを して いる 二人に、わたしが 余計な ことを 言って、もっと もめた。

わたしは 水に流した。

→ _____

- (4) 場めん 高い とびこみ台の 上に 立ったが、こわくて なかなか 決心が つかなかった。

ぼくは 胸を張って いた。

→ _____

- (5) 場めん お店は お客さんで いっぱいで、いそがしくて たまらない。

店の 人は 猫の手も借りたい ほどだった。

→ _____

- (6) 場めん ふいに 後ろから 水を かけられて、びっくりして あわてた。

ぼくは 鼻が高かった。

→ _____

- (7) 場めん テストの 前の日 に なって、まだ 少しも 勉強して いない ことに 気づき、どうして よいか わからなく なった。

ぼくは 肩の荷が下りた。

→ _____

- (8) 場めん みんなが 楽しく 話して いたのに、友だちが 急に 暗い 話を はじめて、その 場が しらけて しまった。

友だちは みんなの 話に 水を差した。

→ _____

- (9) 場めん 広い 校庭の 草むしりを ひとりで ぜんぶ したら、とても たいへんだった。

この 草むしりは 朝飯前だった。

→ _____

- (10) 場めん ひどい うそを つかれて、あきれて 何も 言えなくなった。

わたしは 舌が回った。

→ _____

ことばの 箱(問1～6で つかえます。つかわない ことばも あります)

火に油を注ぐ

目を白黒させる

足が棒になる

とら 虎の子

手を焼く

白羽の矢が立つ

ふ 二の足を踏む



どこがちがう？ 慣用句の直し②【こたえ】

場めん に 合わない 慣用句を 直そう～こまった 場めん～

なまえ _____

ひづけ _____

- (1) 場めん 弟が 何度 注意しても いたずらを やめない。
母は 手を抜いた。
→ 母は 手を焼いた。
○ 手を焼く=あつかいに こまる
× 手を抜く=いいかげんに する
- (2) 場めん 朝から 夕方まで 歩き つづけて、もう 一歩も 歩けない ほどだった。
わたしは 足を運んだ。
→ わたしは 足が棒になった。
○ 足が棒になる=歩きすぎて つかれる
× 足を運ぶ=わざわざ 出かける
- (3) 場めん けんかを して いる 二人に、わたしが 余計な ことを 言って、もっと もめた。
わたしは 水に流した。
→ わたしは 火に油を注いだ。
○ 火に油を注ぐ=いきおいを もっと 強くする
× 水に流す=いざこざを なかった ことに する
- (4) 場めん 高い とびこみ台の 上に 立ったが、こわくて なかなか 決心が つかなかった。
ぼくは 胸を張って いた。
→ ぼくは 二の足を踏んで いた。
○ 二の足を踏む=ためらって 決められない
× 胸を張る=じしんが あって 堂々とする
- (5) 場めん お店は お客さんで いっぱいで、いそがしくて たまらない。
店の 人は 猫の手も借りたい ほどだった。
→ 直さなくて よい
○ 猫の手も借りたい=いそがしくて 手つだいが ほしい
場めん に 合っているので 直さない。
- (6) 場めん ふいに 後ろから 水を かけられて、びっくりして あわてた。
ぼくは 鼻が高かった。
→ ぼくは 目を白黒させた。
○ 目を白黒させる=びっくりして あわてる
× 鼻が高い=ほこらしくて じまんに 思う
- (7) 場めん テストの 前の日 に なって、まだ 少しも 勉強して いない ことに 気づき、どうして よいか わからなく なった。
ぼくは 肩の荷が下りた。
→ ぼくは 頭を抱えた。
○ 頭を抱える=こまり はてる(ほかに: 頭を悩ます)
× 肩の荷が下りる=せきにんが なくなって ほっと する
- (8) 場めん みんなが 楽しく 話して いたのに、友だちが 急に 暗い 話を はじめて、その 場が しらけて しまった。
友だちは みんなの 話に 水を差した。
→ 直さなくて よい
○ 水を差す=じゃまを する
場めん に 合っているので 直さない。
- (9) 場めん 広い 校庭の 草むしりを ひとりで ぜんぶ したら、とても たいへんだった。
この 草むしりは 朝飯前だった。
→ この 草むしりは 骨が折れた。
○ 骨が折れる=たいへんで 苦労する
× 朝飯前=とても かんたんな こと
- (10) 場めん ひどい うそを つかれて、あきれて 何も 言えなくなった。
わたしは 舌が回った。
→ わたしは 二の舌が継げなかった。
○ 二の舌が継げない=あきれて 言葉が 出ない
× 舌が回る=よく しゃべる

○の つけ方

こたえは 一れいです。場めん に 合う 意味の 慣用句なら、ここに ない 慣用句でも、おわりの かたち が ちがっても ○。

☐ 下線を 引けた ☐ 場めん に 合う 慣用句に 直せた ☐ 直さなくて よい 文(問5・問8)は『なおさない』と 書けた